

Clinical Practice Guidelines for the Prevention, Diagnosis, Evaluation, and Treatment of Hepatitis C. Therapeutic Apheresis and Dialysis 16(4):287-288, 2012

Temtori F, Zhang J, Li Y, Karaboyas A, Kerr P, Saran R, Bommer J, Port F, Akiba T, Pisoni R and Robinson B. Longer dialysis session length is associated with better intermediate outcomes and survival among patients on in-center three times per week hemodialysis: results from the Dialysis Outcomes and Practice Pattern Study (DOPPS). *Nephrol Dial Transplant* 27:4180-4188, 2012

Fujikawa T, Ikeda Y, Fukuhara S, Akiba T, Akizawa T, Kurokawa K, Saito A. Time-dependent resistance to Erythropoiesis-stimulating agent and Mortality in hemodialysis patients in the Japan dialysis outcomes and practice pattern study. *Neprone Clin Pract* 122:24-32, 2012

Moroi M, Tamami N, Nishimura M, Haze K, Nishimura T, Kusano E, Akiba T, Sugimoto T, Hase H, Hara K, Nakata T, Kumita S, Nagai Y, Hashimoto A, Momose M, Miyakoda K, Hasebe N, and Kikuchi K. Association Between Abnormal Myocardial Fatty Acid Metabolism and Cardiac-derived Death Among Patients Undergoing Hemodialysis: Results From a Cohort Study in Japan. *Am J Kidney Dis* 461 (3) : 466-475, 2013

Tsuruta Y, Okano K, Kikuchi K, Tsuruta Y, Akiba T, Nitta K. Effects of cinacalcet on bone mineral density and bone markers in hemodialysis patients with secondary hyperparathyroidism. *Clin Exp Nephrol* 17:120-126, 2013

Yamamoto K, Eguchi K, Keneko I, Akiba T, Mineshima M. In vitro Study of Removal of Protein-Bound Toxins. *Blood Purification* 35(suppl 1):51-54, 2013

Yamashita T, Okano K, Tsuruta Y, Akiba T, Nitta K. Serum osteocalcin levels are useful as a predictor of cardiovascular events in maintenance hemodialysis patients. *Int Urol Nephrol* 45:207-214, 2013

星野慈恵、木全直樹、石森勇、木崎尚子、鈴木宏美、塚田三佐夫、三和奈穂子、岡野一祥、坂井瑠実、松田義雄、秋葉隆、新田孝作：塩酸リトドリン投与により妊娠継続した透析妊婦1例における塩酸リトドリンの透析性の検討「日本透析医学会雑誌」46(6)：P545-549, 2013年

#### 著書

若井幸子編、代表世話人：秋葉隆、飯野靖彦：報告と提言「いわき市の透析患者集団避難に学ぶ - 首都圏大災害への備え -」、医学図書出版、2012年10月

秋葉隆、秋澤忠男：「透析療法ネクスト XV 透析患者のCKD-MBD治療最前線」、医学図書出版、2013年06月

秋澤忠雄 齋藤明 秋葉隆 福原俊一：「DOPPS-透析臨床にもたらした impact」、(株)日本メディカルセンター、2013年2月

#### 2) 口頭発表 (筆頭のみ)

秋葉隆：第110回日本内科学会講演会(2013年4月)教育講演 透析療法の現状「日本内科学会雑誌」102(9)、2013年9月

秋葉隆：学会・委員会企画 8 腎不全総合対策委員会の役割～末期腎不全患者数を明らかにすることの意義～(日本透析医学会雑誌 46(Suppl1):402)、第58回日本透析医学会学術集会・総会、福岡、2013年6月

秋葉隆：ワークショップ 12 WS-12-3 原発メルトダウンにともなう透析患者の集団避難の経験と教訓(日本透析医学会雑誌 46(Suppl1):390)、第58回日本透析医学会学術集会・総会、福岡、2013

年 6 月

秋葉隆 (座長: 前田貞亮) : ランチョンセミナー  
2 血液透析患者に対する鉄投与～我国と合衆国  
における鉄投与法の違いとトレンド (プログラ  
ム・抄録集:13)、第 37 回日本鉄バイオサイエンス  
学会学術集会、東京、2013 年 9 月

秋葉隆 (座長: 酒井清孝 山下明泰) : ワークシ  
ョップ 腎臓代謝1 WS(K1)-2 どんな人工腎臓が  
求められているのか (人工臓器 予稿集:S-78)、  
第 51 回日本人工臓器学会大会、横浜、2013 年 9  
月

## 10

## 病病・病診連携の地域モデルの構築（診療連携システム開発に関する研究）

研究分担者：横幕 能行（国立病院機構名古屋医療センター 感染症科）

### 研究要旨

愛知県において Information communication technology (ICT) による病病・病診および医療機関と地域医療者間のネットワークを構築するため、診療の中心となる 4 病院を据え置き型端末 Telecommunication system EX-90 を専用光回線で接続する基幹ネットワークおよび地域医療・福祉機関と接続する Jabber Video for TelePresence による支援ネットワークを構築した。ICT は地域医療体制と HIV 診療従事医療機関との医療的な距離を短縮する効果をもたらすことが期待され、HIV 診療の一般化に寄与する可能性がある。

### 研究目的

HIV 感染者に対する医療的な介入内容の広域化、多様化、長期化に対し、HIV 感染症診療従事者は絶対的に不足している。医療体制班では研修の実施、充実等によって HIV 感染症診療の均てん化をはかっているがその解決には時間を要する。そこで、本研究では喫緊の医療者の不足に対応するため ICT による病病・病診および医療機関と地域医療者間のネットワークを構築し、その効果を検証する。

今年度は、愛知県内の HIV 診療の中核を担う病院間の基幹ネットワークの構築、基幹病院と非拠点医療・福祉機関間の支援ネットワーク構築および ICT の効果予測のため、名古屋医療センターで退院困難症例の療養移行・転院困難要因の解析を行った。

### 研究方法

#### 1) 基幹ネットワーク構築

愛知県エイズ診療中核拠点病院である名古屋大学医学部附属病院に専用光回線による情報共有端末 (Telecommunication system EX-90) を設置する。

#### 2) 支援ネットワーク構築

カメラ付き PC、タブレット端末等を介して、院内、県内他の医療機関および行政諸機関との随時連携を可能とするシステムを構築する。

#### 3) ICT の適応調査と効果検証

名古屋医療センターにおける退院調整、療養支援に難渋している症例を抽出し、その困難要因を検討し、ICT 適応の評価を行う。

### （倫理面への配慮）

患者プライバシー確保のため、症例解析には個人が特定されることのないように配慮を行う。

### 研究結果

#### 1) 基幹ネットワーク構築

基幹ネットワーク 4 カ所目の医療機関となる名古屋大学医学部附属病院で利用契約を審査中である。また、国立病院機構名古屋医療センター、国立病院機構東名古屋病院および愛知県三河地域のクリニックの 3 医療機関の間に既設の基幹ネットワークを用いて、クリニックにおける HIV 診療支援のための調整を行った。

HIV 診療クリニックで求められる支援内容とその対象を以下にまとめる。

#### 【時間帯】

➤ 午前診と夕診との休診時間（患者には診療時間外に特別に来院させる）

#### 【対象】

患者およびクリニック職員、調剤薬局薬剤師

#### 【要支援項目】

- 看護師による生活指導
- 薬剤師による治療開始時、治療開始後の服薬指導
- MSW による社会福祉制度利用支援
- 医師による治療困難例のコンサルテーション

#### 2) 支援ネットワーク構築

タブレット等汎用端末が利用可能なネットワークの構築を行った。①基幹ネットワークに接続可能、カメラ付き PC、タブレット端末でも利用可能なア

プリケーションがある、②利用端末制限を当院のホストコンピュータで可能、③外部からの悪意の接続をブロックできる高度なセキュリティシステムという 3 条件を満たす機器の選定を行った結果、Jabber Video for TelePresence の導入を決定した。

### 3) ICT の適応調査と効果検証

2013 年末時点での名古屋医療センターで退院困難 10 症例の概略を表にまとめる。症例 2、6、8、9、10 の詳細について以下に述べる。

#### 【症例 2】愛知県名古屋市在住 30 代男性

[病名] HIV 感染症、交通外傷、高次能機能障害

[家族構成] 両親他界、長姉（県外）、次姉（市内）

[健康保険] 生活保護

[社会保障制度] 身体障害者手帳 2 級、精神障害者保健福祉手帳 2 級、障害者総合支援制度区分 1

[医療費助成制度] 自立支援医療（更生医療）

[社会資源]

- ・医療機関：名古屋医療センター（感染症科、歯科）
- ・介護・福祉施設：市内障害者相談支援センター、就労支援 A 型
- ・行政機関：市内区役所生活福祉課、市内区障害者支援センター
- ・その他：

[当院通院手段] 名古屋医療センター入院中

家族より県外の姉の居住地の療養型病床への転院希望があった。近隣のエイズ診療拠点病院の後方支援が条件であったが対応拒否。転院候補施設は名古屋医療センターと数十キロ離れており当院が後方支援することは困難である。

#### 【症例 6】愛知県名古屋市内在住ブラジル人 30 代女性

[病名] HIV 感染症、高所墜落による多発外傷、人工肛門造設あり。

[家族構成] 実子 1 名（同居）、両親と妹（県外別居）

[健康保険] 生活保護

[社会保障制度] 身体障害者手帳 1 級、障害者総合支援制度区分 6

[医療費助成制度] 自立支援医療（更生医療）

[社会資源]

- ・医療機関：名古屋医療センター（感染症科、歯科）、往診医
- ・介護・福祉施設：障がい者相談支援センター、訪問看護、訪問介護（2 か所）、訪問入浴、訪問マッサージ、介護タクシー、福祉用具業者
- ・行政機関：市内区役所生活福祉課
- ・その他：愛知医療通訳システム

[当院通院手段] 介護タクシー（ヘルパー同伴）

ベッド上寝たきりの状態での在宅独居での療養が可能なケースである。訪問看護師、介護士、往診医が診療に従事している。名古屋医療センター近隣に居住地を設定したため、当院が後方支援病院と機能可能である。

#### 【症例 8】愛知県名古屋市外在住 40 代男性

[病名] 後天性免疫不全症候群、HIV 関連神経認知障害、発達障害

[家族構成] 母、妹（同居）

[健康保険] 全国保険協会

[社会保障制度] 身体障害者手帳 1 級、障害者総合支援制度区分 3

[医療費助成制度] 自立支援医療（更生医療）、障害者医療費助成制度

[社会資源]

- ・医療機関：名古屋医療センター（感染症科）、往診医、公立総合病院
- ・介護・福祉施設：訪問看護、訪問入浴、訪問リハビリ
- ・行政機関：居住地社会福祉協議会、居住地市役所福祉課

[当院通院手段] 介護タクシー（家族同伴）

家族同居で在宅療養中である。近隣で診療所、居住地公立高次病院の後方支援が得られたことにより、症例 2 と同等の距離にありながら在宅療養継続が可能。

#### 【症例 9】三重県北勢地域在住 70 代男性

[病名] HIV 感染症、心筋梗塞後心不全、脳梗塞後遺症、前立腺肥大症（自己導尿）、梅毒

[家族構成] 姉、甥（三重県内別居）

[健康保険] 生活保護

[社会保障制度] 身体障害者手帳、介護保険制度  
要支援 2

[医療費助成制度] 自立支援医療（更生医療）

[社会資源]

- ・医療機関：名古屋医療センター（感染症科）、開業医、民間病院、公立高次総合病院
- ・介護・福祉施設：訪問看護、訪問介護、地域包括支援センター、配食サービス
- ・行政機関：居住地市役所生活福祉課
- ・その他：居宅指導管理（調剤薬局）

[当院通院手段] タクシー（訪問看護師同伴）

近隣で診療所、二次医療機関、三次医療機関の連携が構築されたことにより高齢多疾患合併者でも独居生活が可能になっている。抗 HIV 薬の処方も診療所と近隣調剤薬局で行われている。名古屋医療センターには半年に一度の通院のみである。

【症例 10】三重県北勢地域在住 60 代男性

[病名] 後天性免疫不全症候群、トキソプラズマ脳症、進行性多巣性白質脳症、B 型肝炎

[家族構成] 妻（同居）、娘、娘婿（別居）

[健康保険] 国民健康保険

[社会保障制度] 身体障害者手帳 2 級、介護保険制度  
要介護 3

[医療費助成制度] 自立支援医療（更生医療）、障害者医療費助成制度

[社会資源]

- ・医療機関：名古屋医療センター（感染症科）、名古屋市内療養型病院
- ・介護・福祉施設：三重県中勢地域の介護老人保健施設打診中
- ・行政機関：居住地高齢福祉課
- ・その他：なし

[当院通院手段] \*名古屋市内療養型病院入院中

居住地でのプライバシー保持の問題があり、同県内の他地域での療養を希望。後方支援病院がある場合に受入可能な老健施設はあったが、近隣の拠点病院が対応拒否。名古屋医療センターとは 100km 以上離れており後方支援対応不可能。

【まとめ】

現状では HIV 感染者が療養を要する状態になった

場合、居住を希望する地域で医療支援体制が構築されるかどうかはその成否が依存する。多くのエイズ診療拠点病院が地域の高次医療機関であり、施設入所者や在宅療養者の後方支援病院に機能的になり得ないことも大きな要因であった。非拠点の後方支援病院の辞退理由は①HIV 感染症の知識不足、②HIV 感染者の受入経験欠如、③診療報酬上の問題（認識不足）④曝露時対応の不備、⑤高次医療機関の受入体制欠如、⑥他の医療機関（療養型病床）の受入体制欠如であった。

## 考察

HIV 感染者の予後改善により、エイズ診療拠点病院以外の一般病院での感染者受入ニーズが増大しており、HIV 感染者の療養環境整備はエイズ診療拠点病院の均てん化のみでは解決できないと思われる。保健所等行政の認識向上と施策構築・実施が必要であるが、多くの HIV 感染者診療病院で少なからず要介護・支援患者が行き場もない状態にある現実を考えると、よりよい療養環境を提供するため、現在の枠組みの中で HIV 感染者の診療に従事する医療・福祉機関を増やす試みを現場が行うしかない。

図 1 に地域、中核拠点病院、ブロック拠点病院が有する医療機能をまとめる。地域には在宅医療従事者から高次医療機関まで存在する。問題は、東海ブロックにおいては多くの地域において HIV の高次医療機関であるエイズ診療拠点病院が機能していないことにある。中核拠点病院は HIV 感染症に関する高次医療および抗 HIV 療法の導入・維持の機能を有するが、病院自体が高次医療機関であり療養型病床を持たないため、急性期診療を終えた患者の診療を行うことは医療機関、HIV 診療従事者の双方にとって種々の負担を生じさせる。現在、社会的責務として HIV 診療に責任をもって取り組むことを求められているブロック拠点病院が要支援・介護 HIV 感染者の療養病床提供を行っている。今後、中核拠点もしくは地域の HIV 診療拠点を中心とした医療連携による HIV 感染者の診療体制を構築するためには、エイズ診療拠点病院の均てん化の推進とともに、地域において HIV 感染者の受け入れ可能なエイズ診療拠点病院以外の一般病院をできるだけ増やす方策が必要となる。

実際に名古屋医療センターの症例を詳細に検討すると、地域で HIV 感染者が療養できるかどうかは、居住地近くの後方支援病院の協力が得られるかどうかによって依存している。図 2 に示すように、地域の医療体制の中で、療養の場から高次医療機関の方向に連携が構築されていけば、患者居住地域とブロック拠点・中核拠点との医療的距離は短くなる。医療的距離が長い場合、物理的距離が短いことが必須条件となる。可変量である医療的距離を如何に短くするか方策を考えることが重要である。

ICT 拡充により①地域医療者への直接支援、②後方支援病院の診療支援、③曝露時の初期対応を行うことにより、後方支援のためのエイズ診療拠点病院以外の一般病院が HIV 感染者受入辞退理由の多くが解決される結果、医療的距離が短縮される可能性がある (図 3)。また、ケアサービスチーム会議などへの遠隔地からの参加も可能になることから、結果として、①後方支援病院の参画、②種々の組織間連携構築、③組織間連携の維持と発展、④症例、地域に適応した支援網の構築、⑤診療経験の蓄積といった成果が得られ、最終的には拠点病院の名にとらわれない診療体制の構築につながることを期待される。

また、基幹ネットワークによる支援によって、通常の一般内科クリニックで、ブロック・中核拠点病院と同等レベルの HIV 診療が可能になることを実証することは、多くの病院等での HIV 診療の実施を推進する事実となる可能性がある。

## 自己評価

### 1) 達成度

情報セキュリティ確保のための審査、検証に時間を要したが、今年度中に機器整備が完了見込みとなった。症例の詳細な解析により、ICT 導入の有用性が示唆された。

### 2) 研究成果の学術的・国際的・社会的意義について

高度、難病、僻地医療の支援で活用が先行している ICT が慢性疾患管理においても重要なツールであることを、HIV 感染症診療を通じて実証可能である。人材育成による均てん化を支援・補填する意義も大きい。

### 3) 今後の展望について

実地利用での効果検証とともに地域で展開されつつある電子カルテ共有化等との連携の可能性も検討する。

## 結論

ICT は、地域における HIV 感染症診療従事者の絶対的不足状況を補い、地域の医療・福祉機関との心理的、医療的距離を縮小することにより地域医療機関での HIV 感染者受入促進、HIV 感染者に対する普通の療養環境提供に貢献する可能性がある。

## 健康危険情報

該当なし

## 知的財産権の出願・取得状況

該当なし

## 研究発表

### 1) 原著論文による発表 (予定を含む)

Nishijima T, Takano M, Ishisaka M, Komatsu H, Gatanaga H, Kikuchi Y, Endo T, Horiba M, Kaneda S, Uchiyama H, Koibuchi T, Naito T, Yoshida M, Tachikawa N, Ueda M, Yokomaku Y, Fujii T, Higasa S, Takada K, Yamamoto M, Matsushita S, Tateyama M, Tanabe Y, Mitsuya H, Oka S. Abacavir/lamivudine versus tenofovir/emtricitabine with atazanavir/ritonavir for treatment-naïve Japanese patients with HIV-1 infection: a randomized multicenter trial. *Intern Med.* 52(7):735-744. 2013.

Shibata M, Takahashi M, Yoshino M, Kuwahara T, Nomura T, Yokomaku Y, Sugiura W. Development and application of a simple LC-MS method for the determination of plasma rilpivirine (TMC-278) concentrations. *The journal of medical investigation* : JMI. 60(1-2):35-40. 2013.

Katano H, Yokomaku Y, Fukumoto H, Kanno T, Nakayama T, Shingae A, Sugiura W, Ichikawa S, Yasuoka A. Seroprevalence of Kaposi's sarcoma-associated herpesvirus among men who have

sex with men in Japan. *Journal of medical virology*. 85(6):1046-1052. 2013.

福山由美、市川誠一、大林由美子、杉浦互、横幕能行。愛知県におけるエイズ診療拠点病院初診患者の受診遅れと検査遅れに関連する要因。日本エイズ学会誌。15(2):119-127. 2013.

平野淳、高橋昌明、柴田雅章、野村敏治、横幕能行、杉浦互。結核を合併した日本人HIV感染症例に対するラルテグラビルカリウムとリファンピシン併用に関する検討。日本エイズ学会誌。15(1):36-39. 2013.

今村淳治、横幕能行、渡辺 哲、今橋 真、小暮あゆみ、森谷鈴子、堤寛、亀井克彦、杉浦互。播種性ヒストプラズマ症発症エイズ患者の一例。感染症学雑誌。87(臨増):311. 2013.

今村淳治、横幕能行、小暮あゆみ、今橋真弓、中畑征史、鈴木純、杉浦互。名古屋医療センターにおけるHIV/AIDS患者におけるアメーバ赤痢の現状。感染症学雑誌。87(臨増):193. 2013.

## 2) 口頭発表

Shiino T, Sadamasu K, Nagashima M, Hattori J, Iwatani Y, Yokomaku Y, Sugiura W. Nationwide HIV-1 transmission dynamics estimated by molecular evolutionary analysis in Japan. 8th Internatinal Workshop on HIV Transmission-Principles of Intervention. Barcelona, Spain, Oct 4-5, 2013.

Kitamura S, Ode H, Nakashima M, Imahashi M, Naganawa Y, Kurosawa T, Yokomaku Y, Yamane T, Watanabe N, Suzuki A, Sugiura W, & Iwatani Y. Crystal structure of human APOBEC3C and HIV-1 Vif-binding interface American Crystallographic Association Annual Meeting. Hawaii, USA, July 20-24, 2013.

Kitamura S, Ode H, Nakashima M, Imahashi M, Naganawa Y, Kurosawa T, Yokomaku Y, Yamane T,

Watanabe N, Suzuki A, Sugiura W, & Iwatani Y. Crystal structure of human APOBEC3C and HIV-1 Vif-binding interface American Crystallographic Association Annual Meeting. Hawaii, USA, July 20-24, 2013.

Imahashi M, Izumi T, Imamura J, Matsuoka K, Koyanagi Y, Takaori-Kondo A, Yokomaku Y, Naoe T, Sugiura W, Iwatani Y. A population-based matched-cohort study on insertion/deletion polymorphism of the APOBEC3B gene and risk of HIV-1. 7th IAS Conference on HIV Pathogenesis, Treatment and Prevention. Kuala Lumpur, Malaysia, June 30-July 3, 2013.

Hattori J, Gatanaga H, Kondo M, Sadamasu K, Kato S, Mori H, Minami R, Uchida K, Yokomaku Y, Sugiura W. Japanese Drug Resistance HIV-1 Surveillance Network. Comparison of patient characteristics and trends of transmitted drug resistant HIV between recent and long-term infection among treatment-naïve HIV-1-infected populations in Japan. 7th IAS Conference on HIV Pathogenesis, Treatment and Prevention. Kuala Lumpur, Malaysia, June 30-July 3, 2013.

Shiino T, Sadamasu K, Hattori J, Nagashima M, Iwatani Y, Yokomaku Y, Sugiura W. Molecular phylogenetic analysis of drug resistance transmissions in HIV-1 subtype B in Japan. International Workshop on HIV & Hepatitis Virus Drug Resistance and Curative Strategies. Toronto, Canada, June 4-8, 2013.

Matsuoka K, Tanabe F, Shigemi U, Hattori J, Ode H, Masaoka T, Morishita R, Sawasaki T, Yokomaku Y, Iwatani Y, Sugiura W. Complexity of cross-resistance mutation patterns in diarylpyrimidine non-nucleoside reverse transcriptase inhibitors rilpivirine and etravirine in clinical isolates. International Workshop on HIV & Hepatitis Virus Drug Resistance

and Curative Strategies. Toronto, Canada, June 4-8, 2013.

Kitamura S, Ode H, Nakashima M, Imahashi M, Naganawa Y, Kurosawa T, Yokomaku Y, Yamane T, Watanabe N, Suzuki A, Sugiura W, and Iwatani Y. The crystal structure of APOBEC3C including HIV-1 Vif-binding interface 4th International Symposium on Diffraction Structural Biology. Nagoya, Japan, May 26-29, 2013.

中島雅晶、北村紳悟、黒沢哲平、大出裕高、河村高志、真野由有、今橋真弓、長縄由里子、横幕能行、渡邊信久、杉浦互、岩谷靖雅。APOBEC3F タンパク質上の HIV-1 Vif 結合領域の同定と構造学的解析。第 36 回日本分子生物学会、神戸、2013 年 12 月 3-6 日。

保坂真澄、藤崎誠一郎、服部純子、椎野禎一郎、松田昌和、蜂谷敦子、重見麗、岡崎玲子、岩谷靖雅、濱口元洋、横幕能行、杉浦互。東海地域で見いだされた新たな CRF01\_AE/B リコンビナント HIV-1 株。第 27 回日本エイズ学会学術集会・総会、熊本、2013 年 11 月 20 -22 日。

中島雅晶、北村紳悟、大出裕高、河村高志、今橋真弓、長縄由里子、黒沢哲平、横幕能行、渡邊信久、杉浦互、岩谷靖雅。APOBEC3F C 末端側ドメインの構造解析と HIV-1 Vif 結合インターフェイス。第 27 回日本エイズ学会学術集会・総会、熊本、2013 年 11 月 20 -22 日。

大出裕高、松岡和弘、松田昌和、根本理子、蜂谷敦子、横幕能行、岩谷靖雅、杉浦互。次世代シーケンサー-IlluminaMiSeq による HIV ゲノム配列の網羅的解析システムの構築。第 27 回日本エイズ学会学術集会・総会、熊本、2013 年 11 月 20 -22 日。

北村紳悟、中島雅晶、黒沢哲平、大出裕高、河村高志、今橋真弓、長縄由里子、真野由有、横幕能行、渡邊信久、杉浦互、岩谷靖雅。抗 HIV-1 宿主因子 APOBEC3F の Vif 結合領域に関する構造学的解析。

第 61 回日本ウイルス学会学術集会、神戸、2013 年 11 月 10-12 日。

大出裕高、松岡和弘、松田昌和、根本理子、蜂谷敦子、横幕能行、岩谷靖雅、杉浦互。次世代シーケンサー-IlluminaMiSeq による微小集族薬剤耐性 HIV の網羅的検出システムの構築。第 61 回日本ウイルス学会学術集会、神戸、2013 年 11 月 10-12 日。

今橋真弓、泉泰輔、渡邊大、今村淳治、松岡和弘、正岡崇志、佐藤桂、金子典代、市川誠一、小柳義夫、高折晃史、内海眞、横幕能行、白阪琢磨、直江知樹、杉浦互、岩谷靖雅。宿主防御因子 APOBEC3B の遺伝子欠損による HIV-1 感染伝播・病勢への影響に関する研究。第 61 回日本ウイルス学会学術集会、神戸、2013 年 11 月 10-12 日。

今橋真弓、泉泰輔、渡邊大、今村淳治、松岡和弘、佐藤桂、金子典代、市川誠一、小柳義夫、高折晃史、内海眞、横幕能行、白阪琢磨、直江知樹、岩谷靖雅、杉浦互。HIV-1 感染伝播・病勢に対する APOBEC3B 遺伝子型の影響に関する解析。第 67 回国立病院総合医学会、金沢、2013 年 11 月 8-9 日。

Ode H, Sugiura W, Yokomaku Y. Molecular dynamicssimulations of HIV-1 protease-inhibitor complex with modified charges for catalytic aspartate. 第 51 回日本生物物理学会年会、京都、2013 年 10 月 28-30 日。

今橋真弓、泉泰輔、渡邊大、今村淳治、松岡和弘、佐藤佳、小柳義夫、高折晃史、横幕能行、白阪琢磨、杉浦互、岩谷靖雅、直江知樹。HIV-1 感染伝播・病勢に対する APOBEC3B 遺伝子型の影響に関する解析。第 15 回白馬シンポジウム、名古屋、2013 年 7 月 19-20 日。

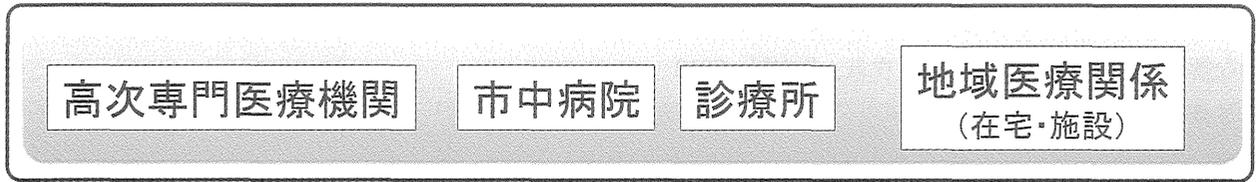
大出裕高、松岡和弘、松田昌和、根本理子、蜂谷敦子、横幕能行、岩谷靖雅、杉浦互。次世代シーケンサー-IlluminaMiSeq による HIV ゲノム解析系の構築。第 15 回白馬シンポジウム、名古屋、2013 年 7 月 19-20 日。

松岡和弘、重見麗、大出裕高、蜂谷敦子、服部純子、森下了、澤崎達也、横幕能行、岩谷靖雅、杉浦互。HIV-1 臨床分離株を用いた Rilpivirine 及び Etravirine に対する交差耐性変異に関する酵素学的な解析。第 15 回白馬シンポジウム、名古屋、2013 年 7 月 19-20 日。

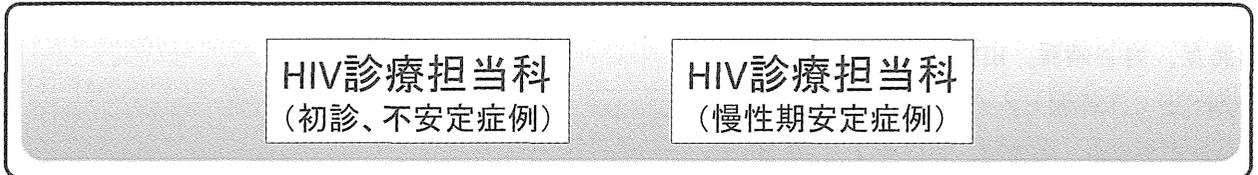
中島雅晶、北村紳悟、黒澤哲平、大出裕高、河村高志、今橋真弓、長縄由里子、横幕能行、渡邊信久、杉浦互、岩谷靖雅。HIV-1 Vif 結合領域を持つ APOBEC3F C 末端側ドメインの構造解析。第 15 回白馬シンポジウム、名古屋、2013 年 7 月 19-20 日。

北村紳悟、大出裕高、中島雅晶、今橋真弓、長縄由里子、黒沢哲平、横幕能行、山根隆、渡邊信久、鈴木淳巨、杉浦互、岩谷靖雅。ヒト抗レトロウイルス因子 APOBEC3 ファミリー間における HIV-1 Vif 結合インターフェイスの構造比較。第 13 回日本蛋白質科学会年会、鳥取、2013 年 6 月 12-14 日。

(1) 地域医療・福祉機関



(2) 中核拠点病院



(3) 名古屋医療センター(ブロック拠点)

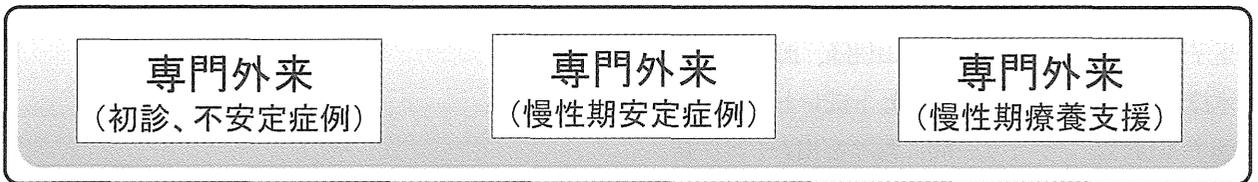


図 1 地域・医療機関が備える診療機能

地域には在宅療養を支える人材も豊富で、高度医療を担う医療機関も存在する。エイズ診療中核拠点病院はエイズ発症者の急性期診療と抗 HIV 療法導入後の外来診療機能を有するが、要療養患者の病床を有しない。ブロック拠点病院は療養支援までの責務を負うが実際は高次医療機関であることが多くベッドコントロールに苦慮する事が多い。

地域	症例	地域	年代と性別	病期	介入原因	身体状況	家族支援
岐阜	1	飛騨	30代男性	AIDS	NTM、CMV	自立	○
	2	中濃	30代男性	AIDS	交通外傷	非自立	△
	3	中濃	50代男性	AC	血友病・透析	自立	○
	4	東濃	40代女性	AIDS	知的障害	療育A	△
愛知	5	名古屋市	60代男性	AIDS	Toxo.、脳出血	要介護5	X
	6	名古屋市	30代女性	AC	高所墜落(自殺企図)	非自立	X
	7	名古屋市	70代女性	AC	年齢个	要介護1	○
	8	三河	40代男性	AIDS	HIV脳症	非自立	○
三重	9	北勢	70代男性	AIDS	年齢个、MI、CI	要支援2	X
	10	中勢	60代男性	AIDS	Toxo.、PML	要介護3	△

NTM: non-tuberculous mycobacteria infection, CMV: Cytomegalovirus infection, Toxo.:Toxoplasmosis, MI: myocardial infarction, CI: Cerebral infarction, PML: progressive multifocal leucoencephalopathy

表 2013年に名古屋医療センターで他施設と連携構築に困難を伴った主10症例

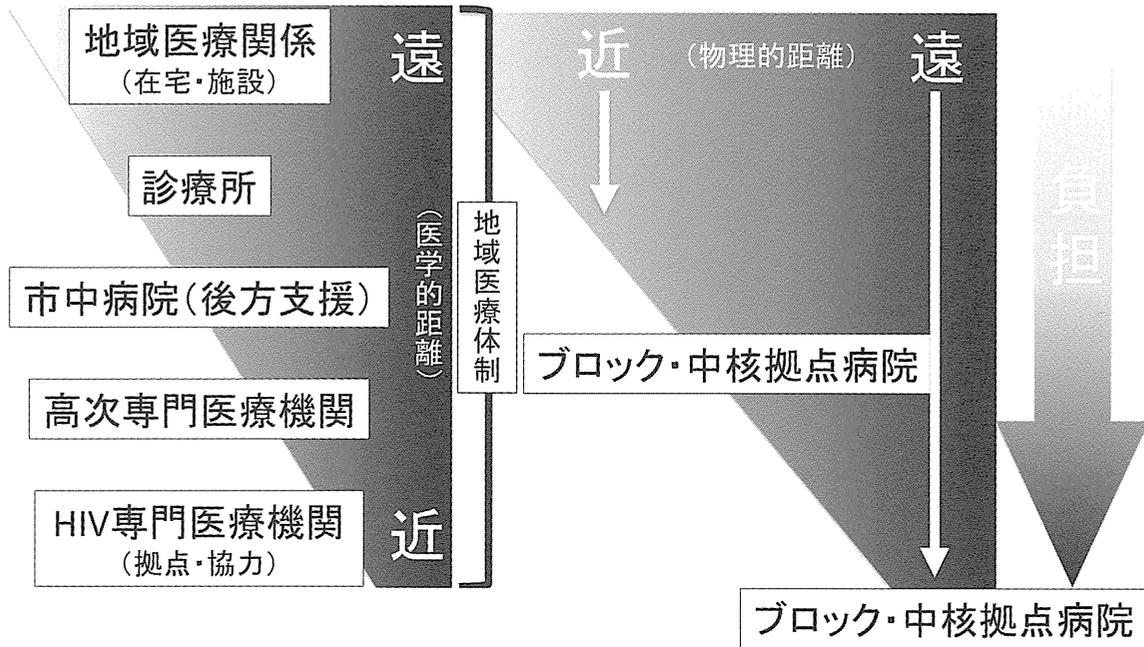


図2 エイズ診療病院の負担は地域医療機関からの距離が規定

在宅療養や施設療養患者の場合、ブロック・中核拠点病院の負担は、地域の医療・福祉機関でイベント時にどこまで高次の医療的対応が可能か（医療的距離）と、患者の居住地域とブロック拠点・中核拠点間の距離（物理的距離）に依存する。最終的にはブロック・中核拠点病院の負荷は医療的距離よりも物理的距離に依存する。



図3 ICT の効果

ICT 導入により、医療的距離、物理的距離を短縮し、心理的距離を縮める効果が期待される。



## 11

## 地域におけるHIV診療および福祉連携のあり方に関する研究

研究分担者：高田 清式（愛媛大学医学部附属病院 総合臨床研修センター・感染症内科）

研究協力者：井門 敬子（愛媛大学医学部附属病院 薬剤部）

村上 雄一（愛媛大学医学部附属病院 感染症内科）

末盛浩一郎（愛媛大学医学部附属病院 感染症内科）

木村 博史（愛媛大学医学部附属病院 薬剤部）

藤原 光子（愛媛大学医学部附属病院 看護部）

中村真理子（愛媛大学医学部附属病院 看護部）

小野 恵子（愛媛大学医学部附属病院 医療福祉支援センター）

若松 綾（愛媛大学医学部附属病院 医療福祉支援センター）

中尾 綾（愛媛大学医学部附属病院 感染症内科）

## 研究要旨

地方の拠点病院と診察協力病院間の HIV 診療の充実および福祉連携について検討する目的で、外来診療の実態を調査研究した。地方の診療、福祉連携のモデルとして愛媛県および四国の HIV 診療と福祉の実態と施設の受け入れ体制を調査し、具体的な問題点・改善策を昨年につき検討した。高齢者施設における HIV 感染症等に関する研修会の開催および調査にて、76%で治療等が良好なら不安はない（うち 10%は治療に関係なく不安はない）、75%が施設として受け入れ可能との結果を得た。また、今後も積極的に HIV に関する情報を希望する割合が 61%と良好な結果であった。また、四国内の各病院で HIV 診療の講演・啓蒙活動を行いつつ、HIV/エイズ患者は積極的に介護施設で分け隔てなく介護をしてもらうための試みとして愛媛および四国での実用的な HIV に関するポケット冊子を作製した。愛媛県等の地方では、高齢者のエイズ難渋例が多く、近い将来を考えると福祉連携など県全体で患者のサポートシステムを組むのがまさに緊喫の課題であると考えられる。

## 研究目的

地方の拠点病院と診察協力病院間の HIV 診療の充実および福祉連携について検討する目的で、HIV 診療の実態の調査研究を行った。愛媛県の HIV 診療や福祉を 1 つの地方のモデルとして、HIV 診療と福祉の実態と施設の受け入れ体制の調査研究を行い、さらに四国の他県の施設とも連携しつつ、四国全体の診療体制の充実を図ることを目的とした。

## 研究方法

地方の診療モデルとして愛媛県の拠点病院および診療協力病院の診療体制の構築・福祉連携について整備・充実を検討しつつ、高齢者施設における HIV 感染症等の受け入れ体制について意識調査を行い、具体的な問題点・改善策を検討した。また今年度は昨年同様、高齢者施設を対象に HIV 感染症に関する研修会を行い啓蒙に努めた。さらに介護に役立つよう、HIV 感染予

防対策に関するポケット冊子（愛媛の現況を内容に折り込んだ）を作製した。なお、患者および関係者に対する人権の保護に配慮して行い、調査に協力できない場合も不利益にならないようにした。

## 研究結果

【1】 愛媛県の高齢者施設における HIV 感染症等に関する研修会の開催および実態調査

2014 年 1 月 17 日に愛媛県立美術館講堂において、県（健康増進課）の協力のもと県内の高齢者施設から現場の福祉・介護担当者に集ってもらい、HIV 感染症等に関する研修会を開催した。その結果、57 名の参加者が得られ、HIV 感染症を中心に初心者にも判りやすく講演を行った（講演者：高田清式）。参加者からは「HIV について初めて勉強できた」「エイズ患者の介護が愛媛でも早急に必要であることを実感した」、「自分達が支援すべき」などと比較的前向

きな意見が交わされ、HIV の知識啓蒙とともに参加者各自に対して HIV 感染者を支援することの自覚を促すことが昨年同様に実現できた。研修会の終了時に HIV 感染者の福祉・介護についてアンケート調査を行った。内容は、① HIV 感染をどう感じたか、② 自分の介護施設への入所をどう思うか、③ HIV 感染に対しての将来の考えなどに関してであった。その結果（回答数 47 名：約 82%）、① HIV 感染をどう感じたか（特に、恐れ不要と感じたか）に関しては、全く恐れ不要 10%、治療されていれば恐れ不要 66% で計 3/4 が恐れ不要と感じており、研修会による啓蒙の効果もあって比較的 HIV に関し前向きに捉えてくれていると考えられた（図 1）。なお、回答年齢は、40 歳代 23% と 50 歳代 36% で、主に現場で実践・指導的立場にある 40、50 歳代であった。

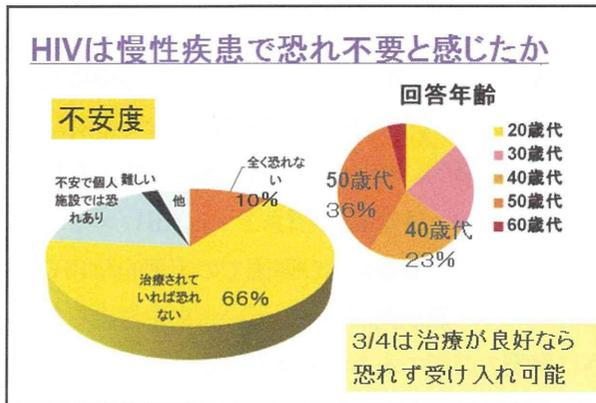


図1 HIV感染をどう感じたか（恐れ不要と感じたか）

また、②各自の介護施設への入所・受け入れをどう思うかに関しては、どんな状況でも受け入れる～不安は強いが受け入れるなどのある程度意識の差はあるが、75%が施設として受け入れ可能との意見を得た（図 2）。さらに、③ HIV 感染に対しての将来の考えなどに関しては、今後も HIV に関する情報を希望するという意見が全員であり、特に積極的に希望する割合も 61% にあり、多くの現場の福祉・介護担当者は、HIV に関する知識の普及や収集に積極的であることが判った（図 3）。

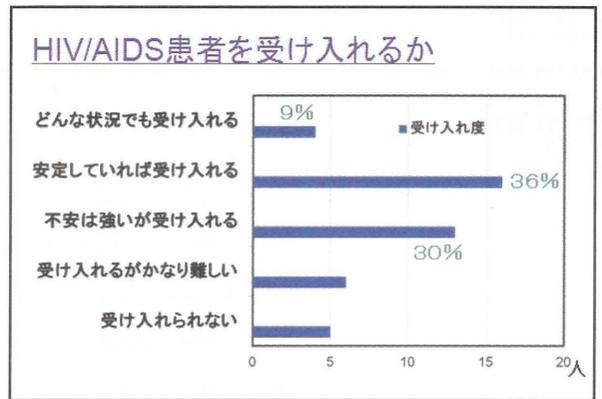


図2 各自の介護施設への入所・受け入れをどう思うか

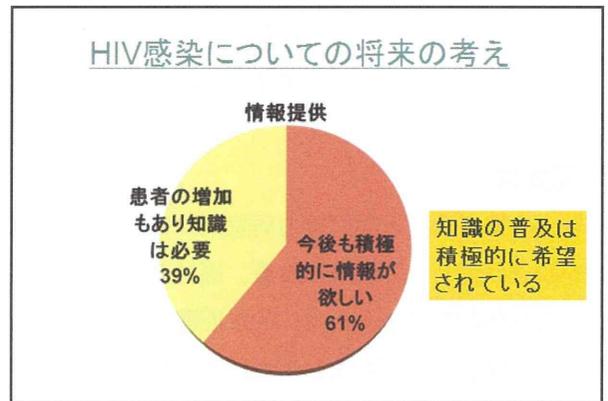


図3 HIV感染について将来の考えと知識の普及

【2】 拠点病院などを対象とした教育講演会、意見交換 四国全体の HIV 診療レベルを向上させることならびに HIV 感染者の増加に伴う福祉連携の充実を目的に、HIV 診療の充実のための講演会として、『HIV 診療についての最近の話題と福祉連携』を演題として、高田清式が演者になり、大洲市立病院（2014 年 2 月 26 日、参加者数 110 名）、および香川県三豊総合病院（2014 年 3 月 5 日、参加予定者 122 名）などの県内外の拠点病院・一般病院に出向き、各病院の医療スタッフ全体に知識向上と今後の連携意識向上を図った。また、大学病院以外の歯科医師との治療連携のため県内の歯科医師 62 名に『愛媛における HIV 感染者の現況と課題（～歯科診療における感染予防～）』の演題で研修会を行った。さらに、保健所職員、拠点病院および多くの立場・職種の有識者（メディア/学校/会社/商業などの立場から選出）と HIV 感染予防対策に関する協議会を 2013 年 11 月 29 日に松山市保健所にて開催し、HIV 感染に関する現況報告（演者：高田清式）を行い、各自の立場での意見交換を行った。また、四国の HIV 診療・福祉の現実を多くの医療関係者に知ってもらう目的で、2014

年 2 月 19 日に愛媛県の HIV 診療ネットワーク会議（県全域の拠点病院が参加）を開催するとともに『高知県の HIV 感染対策の現況報告』というテーマで、高知大学医学部附属病院中村美保 HIV 専任看護師の講演を特別セミナーとして行った。

### 【3】 繁華街における一般向けの啓蒙イベント

多くの一般市民を対象に HIV に関する啓蒙の意味で（特に予防および偏見対策）、2013 年 11 月 30 日に愛媛県の繁華街である大街道商店街にて HIV 予防啓蒙キャンペーンを行った（参加者：保健所、拠点病院、学校関係者、メディアなど）。

### 【4】 地域で実践的なポケット版小冊子の作製

地方で HIV/エイズ患者を積極的に介護施設で分け隔てなく介護をしてもらうための試みとして、介護時の HIV 感染予防対策なども折り込んだ、愛媛および四国での実用的な（愛媛や四国の現況や感染予防内服薬を配備している病院名など具体的に刷り入れた）HIV に関するポケット冊子を作製した。今後現場での意見も聞きつつさらに改良した冊子を作製したい。

## 考察

愛媛県をモデルとして、地方における HIV 診療および福祉連携に関する啓蒙とともに実態調査を行った。全国的に少子高齢化社会になりつつあり、高齢化が一步進んでいる愛媛県および四国は、今後の HIV 感染者の高齢化と福祉対策を考える上で代表的なモデル地区と考える。

当院では 2013 年末現在累計 120 名以上の HIV 診療経験があり（県内の大半の HIV 診療を担当）、愛媛県の中核拠点病院の立場にある。また、四国の他県からも患者は通院している現況である。HIV 感染者・エイズ患者が全国的に増加する傾向にあるが、四国も例外ではなく、愛媛県においても新たに毎年 10 名以上の新規感染者・患者が報告されており、かつ高齢者も多く HIV 診療の充実が早急に迫りつつある課題であると考えられ、そのため福祉を含めた総合的な四国の HIV 診療レベルの向上を目的として調査研究を行った。さらに愛媛県をはじめとする地方においては、高齢の HIV/エイズ患者が比較的多く、愛媛県において平成 25 年 11 月現在 50 歳以上の 8 割は発見時にエイズ患者であるという現実があり、介護福祉の連携は緊喫の課題で

ある。高齢者の多い要因として、愛媛県をはじめとする地方においては、そもそも一般年齢層でも高齢者の比率が高い（愛媛県の 65 歳以上の高齢化率 26.6% 全国 10 位：平成 22 年国勢調査）ことも背景にあると考えられるが、また県内の各地域における HIV 感染そのものの発見の遅れも一因と考えられる。そのため常に講演会でも早期発見のための留意点を強調しているが、患者の増加を抑制するための HIV 感染に対する予防啓蒙とともに、現実の感染者に対して各地域・病院において HIV 診療の向上と福祉の連携体制の充実を図ることは重要な課題であり、今後もさらに指導・教育および現況を把握するための調査研究に努めたいと考える。

今年度は県内の拠点病院のスタッフを集め HIV 診療ネットワーク会議として高知大学医学部附属病院と意見交換を行ったが、愛媛県や四国の他県ではいまだ HIV 診療が未経験や少数しか経験していない病院も多く、これらの病院への知識普及・啓蒙として、現在各病院単位での講演会、HIV 診療ネットワーク会議、診療経験の豊富な病院での見学などを着実に進めていく必要がある。

また、今年度も愛媛県の高齢者施設における HIV 感染症等に関する研修会を全県下に呼びかけて開催し HIV 感染者に対する支援者としての自覚を促すことができたことは意義深い。さらに研修会後の実態調査においては、参加者の約 4 分の 3 程度は「治療等が良好なら不安はない」（うち 10% は治療に関係なく不安はない）および「施設として受け入れ可能」との比較的好感触な結果を得たことは、昨年は 61% が「施設として受け入れ可能」との回答と比べさらに良好であったことを考えあわせると、緊喫の課題である福祉連携の拡大・充実を今後円滑に図り得る可能性がますます高いと考えられた。

さらにより具体化した福祉連携をめざし、今年度は地方で実用的な（愛媛や四国の現況や感染予防内服薬を配備している病院名など具体的に刷り入れた）HIV に関するポケット冊子を作製した。今後現場での意見も聞きつつさらに改良した冊子を将来は作製したい。

高齢化にあたり、HIV 診療および福祉連携のあり方についてさらに検討を続け充実に努め、愛媛県のような地方においても、早期発見や重症患者の治療が十分に行われるように常々心がけて、エイズが進行し生命の危険が著しい患者を 1 人でも少なくしていくように

努めていく必要性があると考える。

## 結論

今回の調査・研究を通じ、各病院間および福祉施設との連携状況を把握するとともに、啓蒙活動を行った。今回の調査では、福祉施設において回答者の約 3/4 で治療等が良好なら不安はない、75%が施設として受け入れ可能との昨年以上の比較的好結果を得た。また、HIV 感染に対する知識や情報を希望する積極性も多く見受けられた。高齢化が進む愛媛県等の地方では、高齢者のエイズ難渋例が比較的多く、福祉連携など県全体で患者のサポートシステムを組むのが今まさに緊喫の課題であると考えられた。

## 健康危険情報

該当なし

## 知的財産権の出願・取得状況

該当なし

## 研究発表

### 1) 原著論文による発表 (予定を含む)

Nishijima T, Gatanaga H, Shimbo T, Endo T, Horiba M, Koga M, Naito T, Itoda I, Tei M, Fujii T, Takada K, Yamamoto M, Miyakawa T, Tanabe Y, Mitsuya H, Oka S: Switching Tenofovir/ Emtricitabine plus Lopinavir/r to Raltegravir plus Darunavir/r in patients with suppressed viral load did not result in improvement of renal function but could sustain viral suppression: A Randomized Multicenter Trial. PLOS ONE 8: e73639. doi:10.1371/journal.pone.0073639 (2013)

### 2) 口頭発表

村上雄一、高田清式、末盛浩一郎、三好一宏、東太地、薬師神芳洋、長谷川均、安川正貴、髄液中の HIV RNA 量、ネオプテリン値を経時的に測定した HIV 脳症の 1 症例。第 87 回日本感染症学会学術講演会・第 61 回日本化学療法学会総会 合同学会、横浜、2013 年 6 月

末盛浩一郎、村上雄一、池田宜央、高田清式、安

川正貴、EB ウイルス感染との関連が示唆された食道多発潰瘍の 2 例。第 21 回日本消化器関連学会週間、東京、2013 年 10 月

小野恵子、橋本一晃、藤原光子、井門敬子、中尾綾、高田清式、愛媛大学医学部附属病院における MSW 介入事例の現状と課題の一考察。第 27 回日本エイズ学会学術集会・総会、熊本、2013 年 11 月

村上雄一、末盛浩一郎、安川正貴、佐藤裕一、安念 優、高田清式、井門敬子、森健一郎、HIV 感染症に潰瘍性大腸炎を合併した一症例。第 27 回日本エイズ学会学術集会・総会、熊本、2013 年 11 月

高田清式、村上雄一、末盛浩一郎、安川正貴、辻井智明、西川典子、木村博史、井門敬子、中村真理子、藤原光子、中尾 綾、小野恵子、HIV 関連神経認知障害 (HAND) における髄液中の HIV-RNA 量、ネオプテリン量の測定。第 27 回日本エイズ学会学術集会・総会、熊本、2013 年 11 月

## 12

## 地域HIV看護の質の向上に関する研究

研究分担者：佐保美奈子（大阪府立大学 看護学部）

研究協力者：伊藤ヒロ子（公益社団法人大阪府看護協会 会長）

堀内 淑子（公益社団法人大阪府看護協会 専務理事）

畑井由美子（公益社団法人大阪府看護協会 教育部）

古山 美穂（大阪府立大学 看護学部）

工藤 里香（兵庫医療大学 看護学部）

椿 知恵（大阪府立大学 看護学部）

山田加奈子（大阪府立大学 看護学部）

澤口智登里（大阪市北区保健福祉センター）

下司 有加（国立病院機構大阪医療センター 看護部）

王 美玲（大阪市立総合医療センター 看護部）

三田 洋子（市立堺病院 看護局）

下井 エミ（大阪府立急性期・総合医療センター 看護部）

久光 由香（近畿大学附属病院 看護部 感染症看護専門看護師）

大野 典子（日生病院 看護部 感染症看護専門看護師）

熊谷 祐子（看護師）

泉 柚岐（看護師）

鈴木 光次（看護師）

池田麻衣子（大阪府立大和川高等学校・大阪府教育センター附属高等学校 養護教諭）

眞弓 靖子（大阪府立堺東高等学校 養護教諭）

賀登さおり（大阪府立成美高等学校 養護教諭）

繁内 幸治（BASE KOBE 代表）

武長 純子（特定非営利活動法人ピープルズホープジャパン）

中田 好美（特定非営利活動法人ピープルズホープジャパン）

## 研究要旨

前年度は、「地域 HIV 看護の質の向上に関する研究」という大きなテーマに向かって、研究協力者の編成をおこなった。大阪府看護協会との協力を強化し、大阪府立高等学校の養護教諭3名を協力者に加えた。HIV サポートリーダー養成研修・高校生への出前講義・院内研修向け DVD 教材の作成に取り組んだ。また、拠点病院における看護の活性化を目指し、HIV ナースネットワーク会議を立ち上げるべく準備をすすめた。今年度は、HIV サポートリーダー養成研修・高校生への出前講義をベースに、新たに、大阪 HIV ナースネットワーク会議を2回開催し、養護教諭向け DVD 教材を作成した。大阪における HIV 看護のネットワーク、高等学校との連携強化に向けて、確実な成果があった。

## 研究目的

大阪府をモデル地域として、拠点病院看護師の HIV 看護の質の向上と一般病院、その他の看護職に HIV 感染症の知識獲得と認識の向上を図る。

## 研究方法

- 1) 合計7回開催した3日間の HIV サポートリーダー養成研修の内容を、研修後のアンケート調査により検討した。

(倫理面への配慮)

アンケート実施にあたっては、学会や報告書において内容を発表することについて了解を得たうえで、協力は自由意志であること、匿名での記入であること、希望時は調査結果を知らせること、個人情報の保護について説明をおこなった。

- 2) 2 回の班会議において、研究目的達成のための方略を検討した。
- 3) 養護教諭向けの DVD 制作について検討し、企画・制作した。
- 4) 2 回の大阪 HIV ナースネットワーク会議において、HIV 看護についての情報交換と症例について検討した。

研究結果

- 1) 3 日間の HIV サポートリーダー養成研修の評価・検討資料として、これまでに開催した研修 7 回分のアンケート調査結果を添付する。これまでに 115 名の修了生を輩出した。

今年度も、3 日目の研修終了後に堂山地区の散策・食事をしながらの交流会を行い、ほとんどの研修受講者が参加し、性の多様性への理解が深まった。

H25 第6・7回研修プログラム

	1) 9:30-11:00	2) 11:00-12:30	3) 13:30-15:00	4) 15:00-16:30
1日目	大阪のHIV感染の現状	セクシュアリティ概論 思春期のセクシュアリティ(健康課題)	HIV陽性者の理解	自己紹介 フリスビー 研究班のとり組み
2日目	若者へのHIV/AIDS予防教育 (タイ チェンマイでの成功事例)		HIVの最新治療	薬害エイズ
3日目	コンドーム達人講座(知識と技術)	HIV陽性者の支援 (地域、ピア)	DVDを使用した 出前講義	自由画 まとめ 修了証書

3 日間という短期間でありながら、セクシュアリティや HIV 陽性者に対する意識が変わり、自分自身の問題としてとらえるところまで態度の変化があった。3 日間の研修をすべて受講したものには、大阪府看護協会長から研修受講証明書を発行した。

アクティビティという楽しい要素を取り入れることによって、自己開示や他者の多様性や個別性を受容することができ、受講生の連帯感も高まっ

た。社会全般からはなじみの少ない HIV/エイズ看護に向き合うためには、仲間からの支援が必須である。

第 7 回目の研修では、受講生合計 18 名中 5 名が大学 4 年生であった。看護の仕事始める前の学部生のうちに「早期体験 (Early Exposure) 学習」として HIV サポートリーダー養成研修の受講は効果があった。受講生のほとんどは大阪府内の拠点病院に就職が決まっており、受講している他の看護師たちの交流も意義が大きかった。今後も受講生の 3 分の 1 程度は、学部生が占めるように働きかけたい。

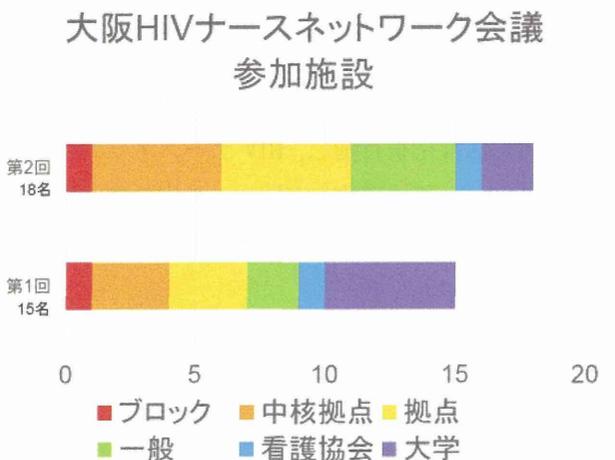
研修修了生が研修の講義を行う機会も、今年は 2 名に増加した。来年は 4 名に担当を依頼する予定である。

エイズ看護には、他の分野の看護にはない専門性があるが、同時に看護の土台ともなるセクシュアリティの多様性の尊重やプライバシーの保護、守秘義務、スタンダードプリコーション、チーム医療などの要素も大きい。エイズ看護に関する研修受講は、看護者にとっては看護の基本に立ち返るきっかけにもなり、日常の看護業務の遂行にあたっても有益である。

- 2) 大阪 HIV ナースネットワーク会議の立ち上げ

第 1 回は 15 名、第 2 回は 18 名の参加者があった。

参加者の所属施設は下図に示すように、拠点病院が半数以上を占めた。



HIV 看護は拠点病院であっても、なじみが薄く、気軽に症例について質問ができる場として、有意義であった。

3) 高校生への出前講義

今年度は、大阪府内高等学校への出前講義を11校に実施した。研究班で独自に作成したDVD教材「本気で CONDOMING」やスライドを用いて、おつきあいのマナー・同性愛の理解・STI 予防・HIV 検査について講義をおこない、高校教員や生徒からよい評価を得た。3 日間研修以後に講師として参加する看護職が4名に増加した。

4) 男性看護師会へのアピール

男性の研究班メンバーを通して、大阪府看護協会男性看護師会のミーティングで、HIV サポートリーダー養成研修について案内を行った。その日のうちに、一人の方から来年度の研修参加申し込みがあった。

5) 養護教諭対象の研修の実施

- ・10月に、大阪府教育委員会 平成25年度児童・生徒の発達段階に応じた「性に関する指導」における指導者養成研修において、「助産師から見た性に関する指導の必要性」というテーマで、小中高校教諭20名を対象に講演をおこなった。
- ・養護教諭向けDVD教材『養護教諭として知っておきたい10のこと』を制作した。

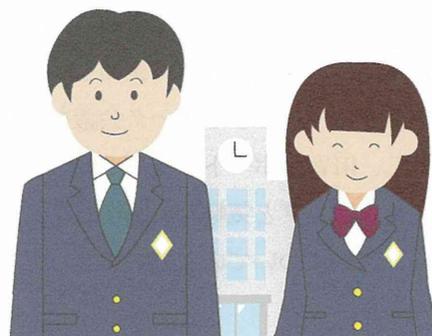
研修用教材 地域HIV看護の質の向上に関する研究



養護教諭として、知っておきたい10のこと

HIV陽性の高校生への支援

- ①学校への告知
- ②親への告知
- ③将来に関する漠然とした不安  
(進学・就職・セックス・結婚・余命・治療費)



- ・今までの生活指導に加えて、通院と服薬支援
- ・高校卒業とそれ以後の人生を応援し続ける

6) 2月にジェクス株式会社の篠山工場において、研究協力者と第6回・7回の研修受講生を対象にコンドーム製造工程や品質チェック方法、販売戦略などの研修を企画している。

考察

これまでに制作したDVD教材については、白阪班ホームページより無料でダウンロードできるようにし、啓発に役立てたい。

高校生への出前講座については、現在11校でおこなっているが、さらに実施校を増加できるように、講師の養成に力を入れたい。

看護職対象の院内研修については、将来的には拠点病院の看護職が自施設や地域の病院・クリニックを対象に研修を実施できるように進めたい。



班会議: 6月・11月

DVD教材作成: 看護のプロとして知っておきたい10のこと(平成24年度)  
養護教諭として知っておきたい10のこと(平成25年度)  
介護職として知っておきたい10のこと(平成26年度予定)

地域HIV看護の質の向上に関する研究 戦略図

上記は、3年間の研究の戦略図である。3日間のHIV サポートリーダー養成研修は、毎回のアンケート調査結果から、非常に効果的であったと評価でき、今後も継続して実施する。

### 結論（次年度の課題）

- ① HIV サポートリーダー養成研修は、6 月末・10 月末に実施し、看護学部生の参加を促進する。
- ② 大阪 HIV ナースネットワーク会議を 7 月・11 月に開催し、HIV サポートリーダー養成研修修了生のフォローアップと気軽な症例検討やプロジェクトチーム活動についての相談の場として活性化する。
- ③ 養護教諭を対象に、DVD 教材『養護教諭として知っておきたい 10 のこと』を使用した研修を実施する。
- ④ 高校生への出前講義を引き続き実施し、大阪府教育委員会との連携を強化する。
- ⑤ 介護職向けの DVD 教材を企画・検討する。
- ⑥ (公社)大阪府看護協会、大阪府内 HIV 診療拠点病院との連携を強化し、上記①～⑤を推進する。

山田加奈子、椿 知恵、古山美穂、佐保美奈子、勤務看護職の高校生への出張性教育活動—参加の意義と活動がもたらす成果—、第 54 回日本母性衛生学会学術集会、2013 年 10 月

佐保美奈子、鈴木光次、古山美穂、椿 知恵、山田加奈子、エイズ予防講座からの高校生の学び、第 27 回日本エイズ学会（熊本）、2013 年 11 月

椿 知恵、佐保美奈子、古山美穂、山田加奈子、工藤里香、HIV サポートリーダー養成研修での新たな試み ～実地見学を通して得られる体験～、第 27 回日本エイズ学会（熊本）、2013 年 11 月

### 健康危険情報

該当なし

### 知的財産権の出願・取得状況

該当なし

### 研究発表

1) 原著論文による発表 投稿中 2 件

2) 口頭発表

山田加奈子、佐保美奈子、古山美穂、椿 知恵、工藤里香、HIV サポートリーダー養成研修の取り組み —研修にアクティビティーを取り入れた効果—、第 27 回近畿エイズ研究会 in 大阪、2013 年 6 月

佐保美奈子、病院での人権研修において HIV/AIDS から学べること、日本人権教育研究学会第 14 回大会（神戸）、2013 年 8 月

椿 知恵、山田加奈子、古山美穂、佐保美奈子、勤務看護職の高校生への出張による性教育活動—「体験」から考える、活動継続への支援—、第 44 回日本看護学会（看護管理）、2013 年 9 月